

令和2年8月5日

保護者の皆様

小金井市教育委員会
教育長 大熊雅士

新型コロナウイルス感染者の人権を守るための家族対話のお願い

新型コロナウイルスが世界的に猛威を振るっている中、小金井市教育委員会は、小金井市医師会と協議を重ねて対応策を検討してまいりました。

6月からは、現在考えられる最大限の感染対策を取りながら授業を再開いたしました。

今後感染者が激増した場合、学校関係者にも感染者が出る可能性はあると考えております。そのような状況においても、感染者の人権を尊重することを目的とした指導は学校でも行いますが、家族でも十分な対話をお願いいたします。

体調が悪くなった場合、それをすぐに周囲に伝え十分に休むことが、現在考えられる感染拡大防止策であると考えます。主旨をご理解の上、以下の3点につきましてご家族で対話をするようにご協力をお願いいたします。

1 感染者を絶対に責めないこと。

現在の状況では、誰もが新型コロナウイルスに感染する可能性があります。そして、知らぬ間に、感染させてしまう可能性もあります。季節型インフルエンザ等の感染症に感染した場合、学級で初めに感染した人を責めることはありません。それと同様に、新型コロナウイルスに感染してしまったとしても、感染させた可能性のある友達等を絶対に責めたりしないことが大切であること。

2 感染者を特定するようなことはしないこと。

学校に最初にウイルスを持ち込んだとされた人も、偶然どこかで感染してしまったある意味被害者と言えるのです。最初の1人は、子供の場合もありますし、その家族であることもあります。また、教職員が感染することもあります。感染した人は、病気と向き合わなければならないだけでなく、多くの人に感染させてしまったのではないかと、悩んでしまう人もいます。

よって、いま私たちができることは、感染してしまった人が、1日も早く治ることを願うことであって、感染経路を特定するために様々な詮索をしないことが大切であること。

3 学校や地域が常に安心・安全な場であること。

新型コロナウイルス感染症の不安の一つに、自分自身が感染した時に周囲から差別されたり、非難されたりするのではないかとということがあると思います。そのような不安が、体調不良であっても学校を休めない、無理をしてしまうという事態につながってしまいます。それが原因で感染拡大につながってしまう可能性があります。現在、最も大切なことは、すべての人が安心して誰にでも相談できること、万が一の状況になっても、誰も責められることはないという安全な場所を確保することだと思います。学校、そして地域がそのような安心・安全な場所となることが最も大切であること。